

入、火の用心ようじんもあしく候、万事ばんじに損そんなる

もの二候事

一年ねんぐ貢ぐを出いだし候義ぎ、反別たんべつにかけハ壺いったん反二付

何ほと、高たかにかけハ壺いちこく石いに何ほど割付わりつけ、

差紙さしかみ地頭ぢとう代官だいくわんよりも出いだし候、左ひだり候まへハ耕作かうさく

に精せいをいれ、よく作り、取実とりみ多くこれ有あ

れその身み乃德とくに候、悪あしく候へハ人しらす身上の

ひけに候事

一御年貢かいさい皆済みなさいの砌まじり、米五升こめごしよぶ六升ろしよぶ壺斗いっとうにつ

まり、何とも仕るへきやうこれなき時とき、郷中がうちゆうを

かりあるき候へとも、皆済時みなさいとき分ぶんたがひに米こめこれ

なきよし、かさざるによつて、米五升壺斗いっとうに

子供こども又ハ牛馬うしうまもうられす、農道具のうだうぐ・きる物もの杯なと

売うらんとおもへハ、金子きんすい壺分いちぶにて仕立したて候を